

2025/09/20

⑭Tugu Yogyakarta

人文社会科学部 2 年生

1. Tugu Yogyakarta

Tugu Yogyakarta とはインドネシアのジョグジャカルタにある歴史的な建造物である。ジェンデルル・スディルマン通りとマルゴ・ウトモ通りの交差点に位置している。この記念碑はジョグジャカルタのシンボル、紋章としてよく使用されている。



2. 歴史

Tugu Monument が建てられる前には「ゴロン・ギリグ記念碑」という高さ 25m の記念碑が建っていた。人々と王、人間と創造主の一体性の哲学を表した記念碑であり、1755 年にジョグジャカルタ王国建国者であるハメングブウォノ 1 世によって建設された。「ゴロン・ギリグ」は記念碑の元々の形の円筒形「ゴロン」と丸い頂部「ギリグ」に由来している。

しかし、1867 年 6 月 10 日の地震により、倒壊し 20 年以上放置された。1889 年にオランダ植民地政府によって、ハメングブウォノ 7 世の治世になって初めて再建された。デザインはヨーロッパ様式が反映されていて元々のゴロン・ギリグのデザインとは異なっていた。例えば、先端が尖った形に変更されたり、高さを 25m から 15m に短縮されたりした。この新しいデザインは以前の国王と国民の一体感の象徴を表すデザインを排除するためのオランダの策略だったのではないかと考えられている。記念碑は植民地政府が「デ・ウィット・パール」と名づけたが、ジョグジャカルタの人々はこの記念碑が街の力強いシンボルとなったため、「トゥグ・ジョグジャ」と呼び続けた。

2012 年に改修工事が終了し、記念碑の装飾の一部は 22 金を含む黄色に塗られた。また、周囲には小さな公園も造られた。(写真左が 1920 年代、右が 2013 年)

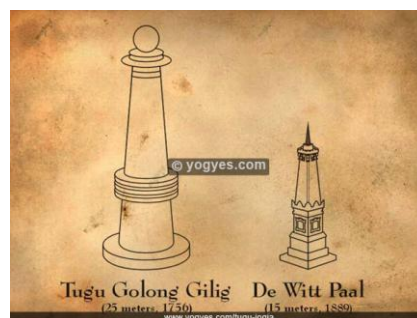
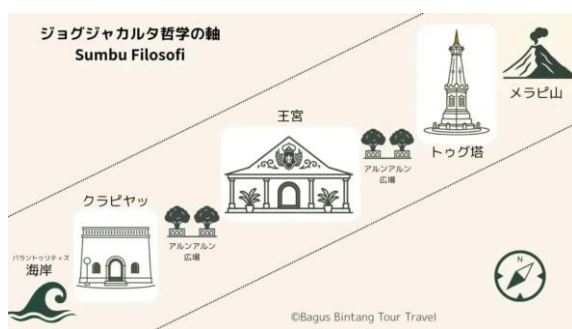


3. 哲学

この記念碑は北にメラピ山、中央にジョグジャカルタ王宮（クラトン）、南にパラントゥリティス・ビーチがあり、軸のようになっている。メラピ山は火を王宮は大地、南のビーチは水を表しており、この軸は人間、自然、神の宇宙的バランスという哲学的な考えを反映している。「人類と神の融合」という概念を深く結びついていて、ジョグジャカルタの人々の精神的なつながりを反映している。この哲学は自然の要素と人間の生活の調和を維持することが大事とされるジャワの伝統的な信仰とも一致している。

また、この記念碑はジョグジャカルタの人々の闘争精神（植民地支配への抵抗）を反映している。オランダ政府に改修のデザインである球の形をした頂部をもつ円形のギリグは、団結と不屈の精神を象徴していた。

19世紀にオランダ人によってデザインや形は変化したもの、この記念碑の精神と象徴的価値は今もなお存在している。



4. まとめ

Tugu Yogyakarta はジョグジャカルタの歴史や人々の哲学的な精神の象徴とされ、古くから現在に至るまで人々のシンボルであった。歴史的な背景によりデザインは変更されたものの、精神的な価値はそのまま残っている。デザインにも深い意味が込められており、元々のデザインである球の形をしたゴロン・ギリグは団結と不屈を意味していた。メラピ山、記念碑（Tugu Yogyakarta）、王宮、海が軸になるように位置していて、位置関係の視点から見ても非常に興味深い記念碑である。

5. 参考文献

[TUGU JOGJA - Foto 360° & Sejarah Ikon Kota Jogja](#)

[【世界遺産】ジョグジャカルタ哲学軸 | Bagus Bintang Tour & Travel](#)

[Tugu Jogja: Ikon Sejarah dan Filosofi Kota Yogyakarta | Telkomsel](#)

[Tugu Yogyakarta - Wikipedia bahasa Indonesia, ensiklopedia bebas](#)